

インターバンクの声（2017年6月22日）

東京市場のドル円は、原油安と米長期金利の低下からドル売りとなっていたニューヨーク市場の流れがそのまま続き、日経平均が小幅ながらも一日中マイナス圏で推移していたこともあって、ドル売り圧力が強いまま111円台前半中心の取引が続いた。ロンドン市場の午前中に111円07銭までドル売りが進んだが、原油価格の持ち直しと米長期金利が上昇に転じたことからドルの買い戻しが顕著になった。

前日は、カーニー英中央銀行総裁の利上げに消極的な発言から下落したポンドだったが、昨日は、英中央銀行のハルデーソン理事が利上げを支持する発言をしたため、ポンドは急反発した。

このポンドの急反発によるポンド円の上昇も円売りに寄与したとの声もあるが、市場参加者がそれほどポンド円のポジションを持っていたとは思えない。それよりも先週末の米住宅着工件数や建設許可件数の悪化から注目となっていた昨日の米中古住宅販売が予想外に増加したことで、米住宅市場の減速懸念が和らいだことがドル買いの後押しになっていたように思われる。

ただ、ドルの上昇も111円70銭台までで、6月に入ってから111円80銭を一度も越えていない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。